

海の方へは、  
不可思議の国だった。



# アズールと アスマール

ミッシェル・オスロ監督

日本語版監修・翻訳・演出：高畑 勲 日本語吹替版キャスト：香川照之

原作・脚本・監督：ミッシェル・オスロ 音楽：ガブリエル・ヤレド 日本語版監修・翻訳・演出：高畑 勲 字幕翻訳：豊川重実 原典：Azur et Asmar 後援：フランス大使館文化部 ほか：ユニフランス東京 特別協力：ローソン 提供：三鷹の森ジブリ美術館・スタジオアズール・日本テレビテレビアニメーション 放送：三鷹の森ジブリ美術館 2006年フランス/99分/アメリカンビスタ/トルビール-SHD.DTS

NORD-OUEST présente AZUR ET ASMAR un film de MICHEL OCELOT avec LES VOIX DE CYRIL MOURALI - KARIM M. RIBAH - HIAM ABBASS - PATRICK TIMSIT PRODUIT PAR CHRISTOPHE ROSSIGNON SCENARIO DIALOGUES ET D'ANIMATION MICHEL OCELOT MUSIQUE ORIGINALE GABRIEL YARIED SECOURS ANIMALES LOURDELET ASSISTANT REALISATEUR ERIC SERRIE SON THOMAS DESJONQUERES CYRIL HOLTZ POST PRODUCTION JULIEN AZOULAY PRODUCTIONS EXECUTIVE EVE MACHUREL FINANCING INTERNATIONAL DANIEL MARQUET PRODUCTEURS ASSOCIES PHILIP BOEFFARD et JACQUES BLEU une coproduction entre NORD-OUEST PRODUCTION, MAG GUFF LIGNE, STUDIO O, FRANCE 3 CINEMA, RHONE-ALPES CINEMA, ARTEMIS PRODUCTIONS, LUCKY RED, ZAHORIMEDIA, INTUITIONS FILMS avec la participation de CANAL+, TPS STAR, LE CENTRE NATIONAL DE LA CINEMATOGRAPHIE avec le soutien de EURIMAGES, LA REGION ILE-DE-FRANCE, EN ASSOCIATION avec COFIMAGE 16, COFINOVA 2, SOFICINEMA Bande originale du film disponible chez :

いい子はね 大きくなって 海を渡るよ  
救い出すよ ジンの妖精を ふたりは幸せに

アラビア人の乳母ジェナヌの子守歌で、

まるで兄弟のように育った

青い瞳のアズールと黒い瞳のアスマール。

大きくなって乳母の歌っていた子守歌の国を訪ねるため、

アズールは、遠く海を渡る。

しかし、この国の人たちはみんなが黒い瞳で、

アズールの青い瞳は不吉の呪われた目“だった”。

かつて栄華を極めた中世イスラムを舞台に、

「キリクと魔女」のミッシェル・オスロが描く

少年の自立と成長と融和の物語。

海の向こうは、不可思議の国だった。



## 上機嫌で美しい未来思考

日本語版監修・翻訳・演出 高畑 勲

『アズールとアスマール』は、日本の傑作とは面白さの質がまるで違う明快至極な傑作です。先に言うべきだと思うのですが、この映画の本筋のお伽話的冒険ファンタジーとしての側面は、あくまでも物語の楽しい枠組みにすぎません。日本アニメだったら手に汗握らせるにちがいない「見せ場」は、どれもこれもオスロ氏はじつにあっさりと片付けます。そういうところで日本アニメ風のドキドキワクワクを期待すると、見事に肩すかしをくらいます。

でもそこにつまずきさえしなければ、『アズールとアスマール』がどんなにユニークで面白い映画か、子どもにも大人にもすぐわかります。そしてそれを楽しみはじめると、とんとん拍子で進む冒険譚も、そのゲーム的な手順のよさがかえって小気味よいほど。その過程で出会うさまざまな見聞のなかにこそ、この映画の主眼があるからです。

『アズールとアスマール』の主眼とは何か。それは、異なった人種や民族、文化圏などの間にある反目や偏見を取り除き、人々が相互理解と融和に向かうための基盤づくり役に役立つことを、とびきり美しく面白く語ろう、という狙いです。オスロ氏は、スピーディーな展開のなかに、観客がこの問題を考えていけるための大事なポイントを、充分な現実的描写によって豊かに織り込みます。映画のなかで話されるアラビア語はまったく訳すことをせず、言葉の通じない異国での体験を擬似的に観客に味わわせるのもそのためです。そして作品の中にふんだんに「対比」を仕掛けました。

青い目のアズールと黒い目のアスマールは、母のない子と父のない子の乳兄弟で、片や領土の息子、片や他国者の貧しい乳母の子。教育も受けられなかったアスマールは、母親とともに屋敷を追い出され、ヨーロッパに恨みをもち、そこ人間を醜いと思ひこむ。乳母の国に憧れて海を渡ったアズールもまた、貧しい人々、醜い景色、青い目を不吉とする迷信、すべてに失望して文字どおり目を閉ざし、盲目をよそおう。そして物乞いに身を落としたアズールの前に、女大商人となった乳母と息子アスマールがあらわれ、立場が逆転する。フランスで迫害されたユダヤ人学者も、迫害のない寛容なイスラム世界では、同じよそ者扱いながら賢者・医者として生きられる。粗野で閉鎖的な中世ヨーロッパと、交流によって繁栄する中世イスラム世界。

反目や偏見をなくすためには個人と個人の付き合いこそ大切と、こういう対比のなかで、オスロ氏はじつに個性的で面白い人物たちを活躍させます。そこがこの作品の一番の魅力です。二十年前フランスから流れてきて物乞いをしているクラブーも、

大商人の乳母ジェナヌも、なんとも可愛い聡明なシャムスサバ姫もユダヤ人の賢者も、そしてもちろん主人公のアズールも、それぞれがまるで違う人物なのに、「二つの国、二つの言語、二つの宗教を知っている」点で共通して、対話が成立しうる相手なのです。マグレブからの移民の多いフランスならではの着眼が光ります。母とはがよい、アスマールはアズールに心を閉ざしたままですが、冒険で競い合ううち、危機に直面し、幼時の友愛をよみがえらせます。

映画に宗教色は一切なく、女性の地位など現実にはほぼありえなかった設定を巧みに導入することによって、現代の欧米人とムスリム双方に対し、希望に満ちた上機嫌の未来思考を促します。そして花咲乱れる中庭や、理想化された天文台や、華麗なアラベスク装飾をふんだんに描き出して、イスラム文化への敬意と憧憬を呼び起こすのです。ご存じのとおり、中世のイスラム世界は繁栄を誇る先進地で、ギリシャの科学も医学もそこを経由してヨーロッパに入ったのです。

『プリンス&プリンセス』『キリクと魔女』で感嘆させたオスロ氏得意の装飾的な絵画スタイルは、アラベスクという素材を得て、ここに極まったというほどの美しさです。ところが大胆にも、それとは水と油のような3DCGによって、顔だけがリアルに立体造形されます。そんなことがうまくいくはずはないと誰もが思うその試みに、オスロ氏は見事に成功しました。人物の顔貌と的確な表情描写がこの作品に深みを与え、本領発揮の装飾美術的美しさとともに、その大きな魅力のひとつとなっているのですから。

美しく明快で面白い『アズールとアスマール』をぜひ楽しんで頂きたいと思います。

# アズールとアスマール



2006年 | フランス | 99分 | アメリカンビスタ | ドルビー-SRD-DTS

© 2006 Nord-Ouest Production - Mac Guff Ligne - Studio O - France 3 Cinéma - Rhône-Alpes Cinéma - Artémis Production - Zahorimédia - Intuitions Films - Lucky Red



## 7.21(土) 二人の旅がはじまる。

特別鑑賞券 ¥1,500 6月1日より発売！  
劇場窓口&ローソン店頭のLoppi(コード:37352)にて

※詳しくはオフィシャルHPまで [www.ghibli-museum.jp/azur/](http://www.ghibli-museum.jp/azur/)

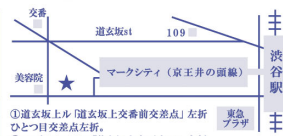
渋谷区道玄坂1-18-3 フジビル37-B1

シネマ・アンジェリカ

TEL:03-5459-0581 <http://www.gojyu.com/>

吹替版 字幕版 吹替版  
10:30 12:45 15:00 17:15 19:30

当日料金 一般:¥1,800 大学生:¥1,500 小中・高校生:¥1,000



立川シネマシティ  
TEL:042-525-1251

※詳しくは劇場にお問い合わせ下さい。

